

# 令和6年度 大領中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

## 2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

## 3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

## 4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

# 令和6年度 大領中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

## 1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	61	52	44	5.4	17.4
	大阪市	—	56	51	4.1	12.5
4月18日	全国	—	58.1	52.5	3.9	11.3

## 2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	55	62.7	46.3	52.5	54.9	55.9	5.5	5.6	14.3	3.5	7.6
	大阪市	—	65.4	50.2	48.8	52.1	54.0	4.9	4.7	14.3	4.1	6.5
	大阪府	—	65.2	50.4	49.1	52.3	53.6	5.3	5.0	14.8	4.4	6.9
2 年	学校	88	67.0	53.5	48.0	53.3	57.7	6.5	2.0	9.3	4.7	6.1
	大阪市	—	66.1	49.9	51.4	49.5	54.6	8.4	4.6	8.2	6.1	7.0
	大阪府	—	65.5	49.5	50.7	47.2	54.0	9.3	5.2	9.5	7.4	7.9
1 年	学校	78	62.3	60.0	62.8	64.8	68.6	7.7	—	5.1	—	4.1
	大阪市	—	59.0	53.7	50.5	55.6	62.1	8.3	5.5	7.4	3.8	4.9
	大阪府	—	58.5	—	49.8	—	61.5	9.4	—	8.3	—	5.8

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はB問題を選択

※ 3年生の理科はC問題を選択

## 3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】	聞くこと 【リスニング】	書くこと 【ライティング】	話すこと 【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3 年	学校	50	98.0	102.2	139.2	95.4
	大阪市	—	105.7	104.6	149.6	102.1

## 4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

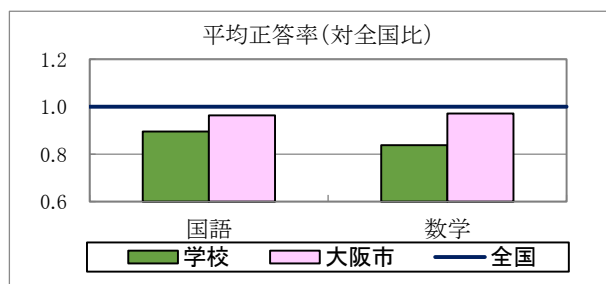
学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
	84	(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2 年 男 子	学校	26.75	24.23	34.72	52.41	76.81	—	8.82	186.00	19.23	36.49
	大阪市	28.38	26.42	42.74	51.50	79.76	422.62	8.08	194.64	19.84	41.10
	全 国	28.95	25.94	44.47	51.51	78.98	410.69	7.99	197.18	20.57	41.86
2 年 女 子	学校	24.63	24.30	46.45	47.08	58.48	—	9.11	156.08	10.23	47.14
	大阪市	22.99	22.21	45.64	45.86	52.98	337.57	9.01	167.01	12.04	47.51
	全 国	23.18	21.56	46.47	45.65	50.67	309.02	8.96	166.32	12.40	47.37

# 令和6年度 大領中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

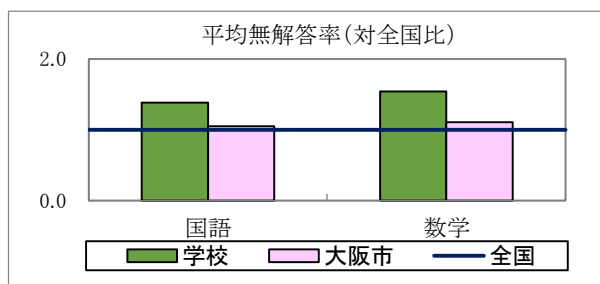
## 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

### 【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	52	44
大阪市	56	51
全国	58.1	52.5

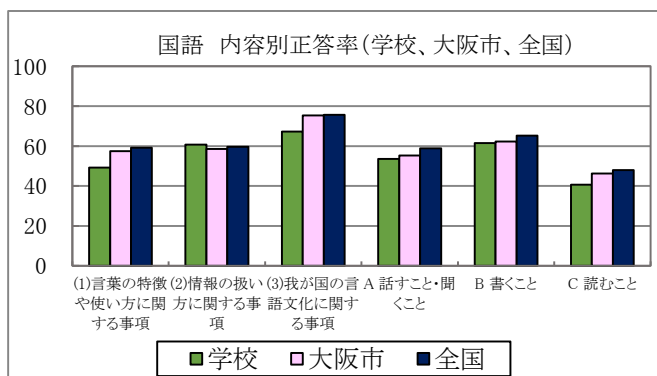


	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	5.4	17.4
大阪市	4.1	12.5
全国	3.9	11.3



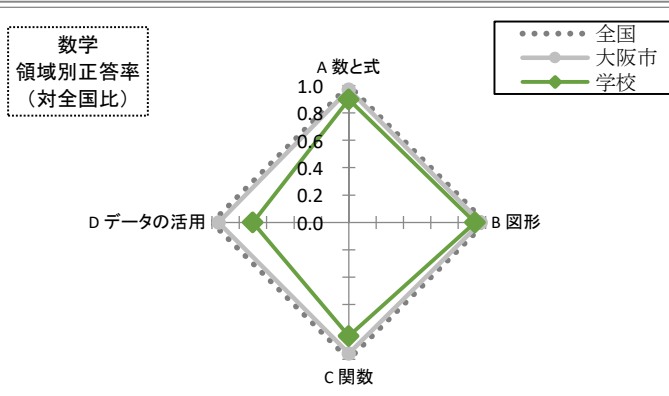
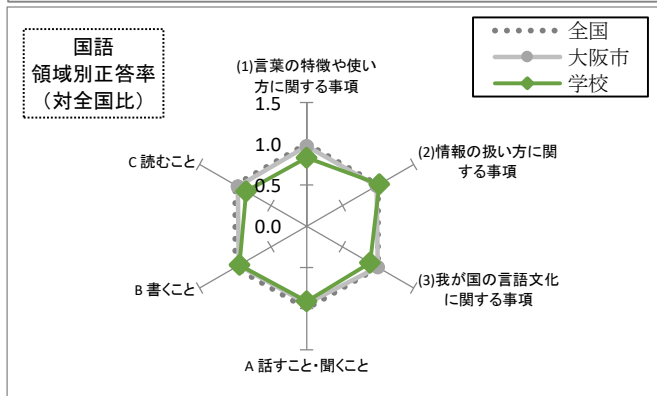
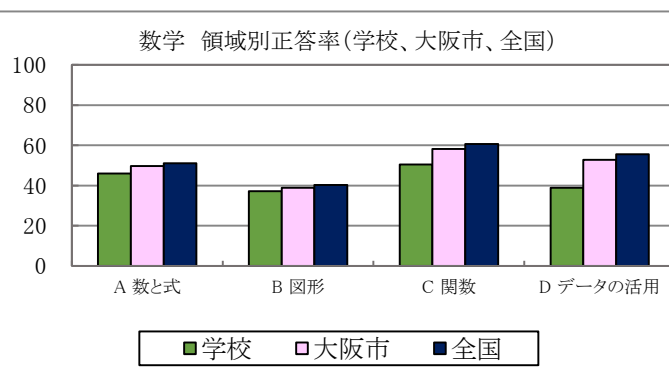
### 【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	3	49.2	57.5	59.2
(2)情報の扱い方に 関する事項	2	60.7	58.5	59.6
(3)我が国の言語文化に 関する事項	1	67.2	75.3	75.6
A 話すこと・聞くこと	3	53.6	55.2	58.8
B 書くこと	2	61.5	62.2	65.3
C 読むこと	4	40.6	46.2	47.9



### 【 数 学 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	45.9	49.6	51.1
B 図形	3	37.2	38.9	40.3
C 関数	4	50.4	58.1	60.7
D データの活用	4	38.9	52.8	55.5



# 令和6年度 大領中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

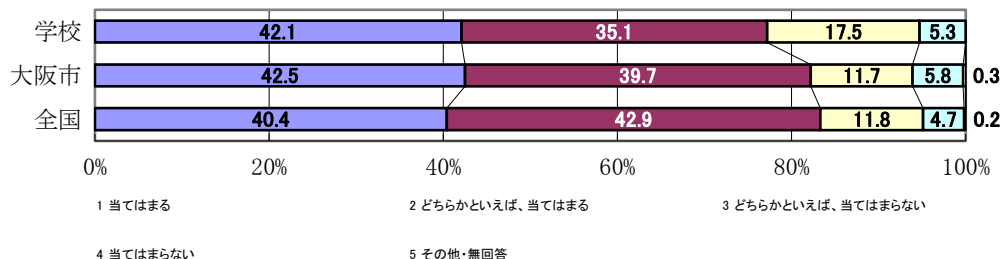
## 生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号  
質問事項

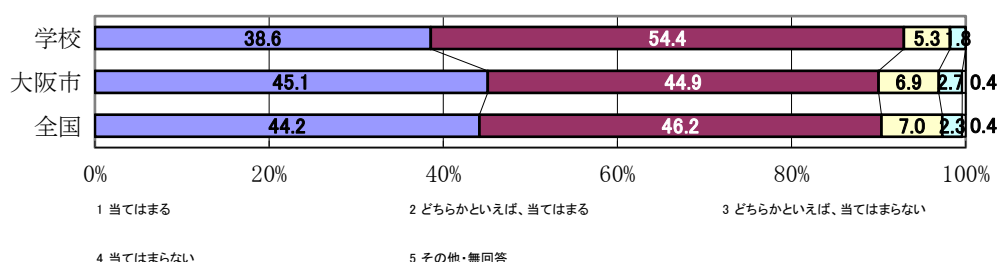
9

自分には、よいところがあると思いますか



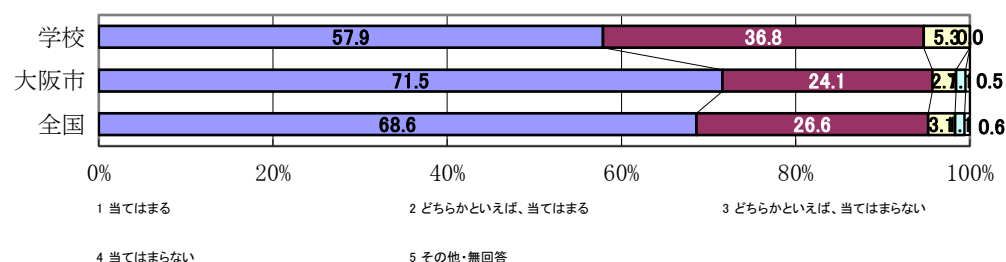
10

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



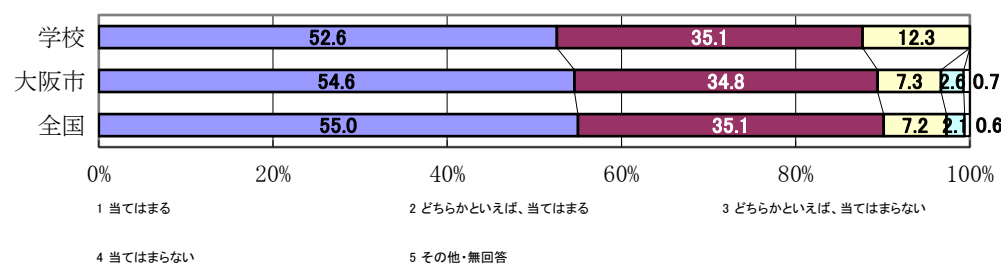
15

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



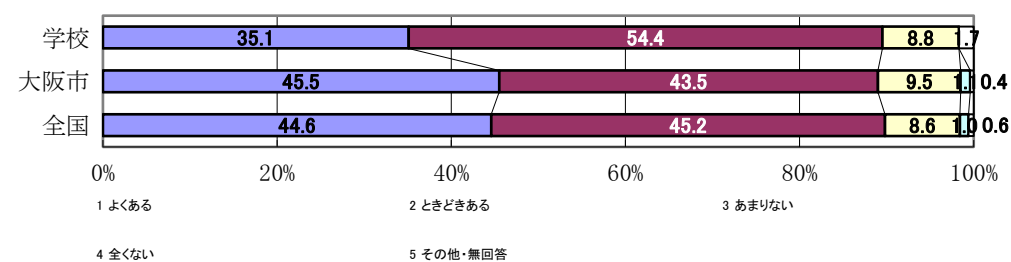
18

友達関係に満足していますか



19

普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



# 令和6年度 大領中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

## 学校質問より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

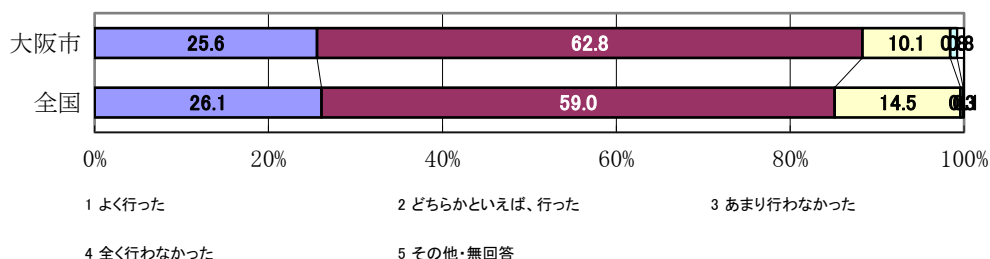
質問番号

質問事項

33

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

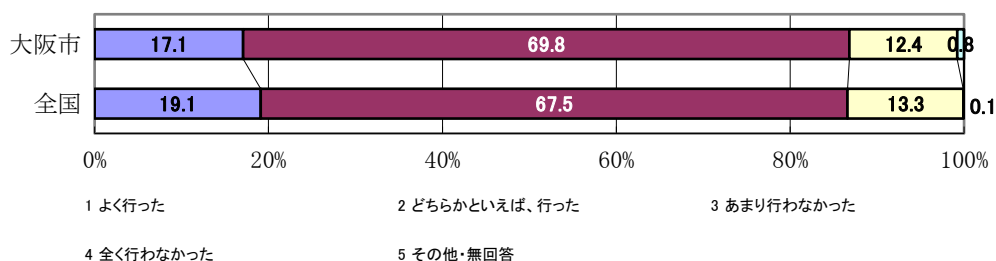
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



34

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか

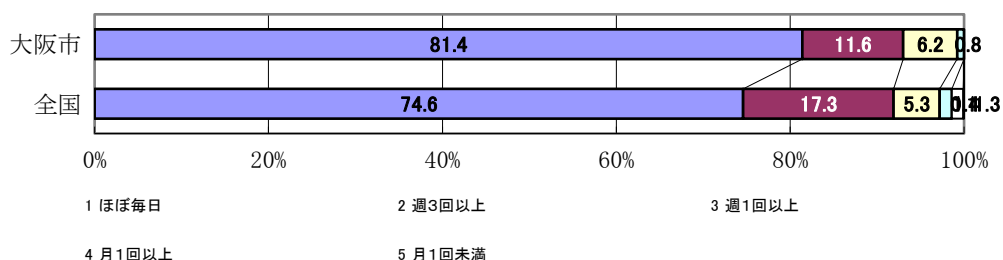
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



57

前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

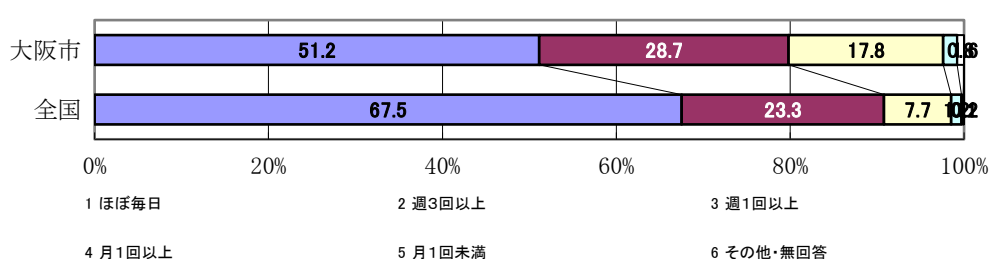
学校 「ほぼ毎日」を選択



60

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

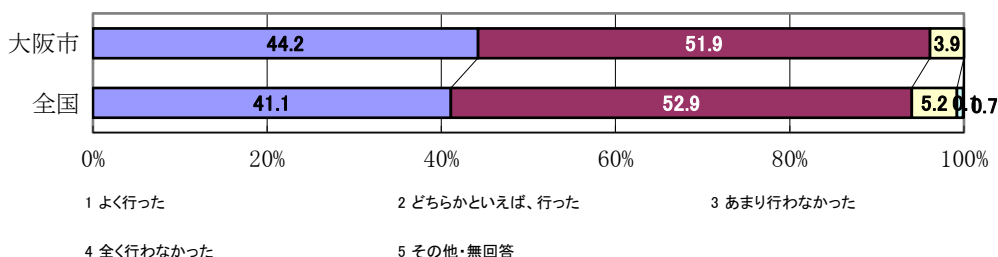
学校 「ほぼ毎日」を選択



71

学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の生徒に対する授業の中で、生徒の特性に応じた指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫等)をどの程度行いましたか

学校 「どちらかといえば、行った」を選択



令和6年度 大領中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

＜国語＞

全学年ともすべての分野で大阪府の平均点と近い得点となった。中でも1年生についてはすべての分野で少しずつ大阪府の平均点を上回ることができた。

＜社会＞

○中学校3年生チャレンジテスト

大阪府平均から－3.9点という結果となった。大阪府の平均を下回ってしまう結果となったが、昨年度に比べると、平均点との差は比較的詰められた結果となった。

○中学校2年生チャレンジテスト、中学校1年生チャレンジテストplus

2年生は大阪府平均から＋4点、1年生のチャレンジテストplusは大阪市平均から＋6.7ポイントといずれも平均を上回る結果となった。

＜数学＞

2年生はすべての分野で少しずつ大阪府の平均点を下回り、3年生はすべての分野で少しずつ大阪府の平均点を上回った。

1年生は「数と式」の分野で＋6.2点、「図形」の分野で＋3.0点、「関数」の分野で＋3.8点と大きく大阪府の平均点を上回ることができた。

＜理科＞

○中学校3年生チャレンジテスト

大阪府平均から＋2.6点という結果となった。

○中学校2年生チャレンジテスト、中学校1年生チャレンジテストplus

2年生は大阪府平均から＋6.1点、1年生のチャレンジテストplusは大阪市平均から＋9.2ポイントといずれも平均を上回る結果となった。

＜英語＞

○中学校3年生チャレンジテスト

大阪府平均から＋2.3点という結果となった。

○中学校2年生チャレンジテスト、中学校1年生チャレンジテスト

2年生は大阪府平均から＋3.7点、1年生のチャレンジテストは大阪市平均から＋7.1ポイントといずれも平均を上回る結果となった。

○G-tec

[成果] 「読むこと」は大阪市と比較して－7.7点、「聞くこと」は大阪市と比較して－2.4点であった。

[課題] 「書くこと」は大阪市と比較して－10.4点、「話すこと」は大阪市と比較して－6.7点であった。

＜保健体育＞

全国体力・運動能力調査においてほとんどの種目において大阪府や全国の平均と近いものとなった。

男子においては「反復横とび」、女子においては「握力」、「上体起こし」、「反復横とび」、「20mシャトルラン」の4種目において全国平均を上回った。

【今後に向けて】

3年生については春の全国学力・学習状況調査から比べて大阪府の平均点に近づいたり、上回るなど伸びが見られた。

1、2年生についてもほとんどの教科で大阪府、大阪市の平均点を上回っている。

今後は大阪府や大阪市の平均点を基準にはするが、経年比較において前年度の結果を基準とした成長を期待したい。

また、全体だけではなく個別の結果に着目すると、一定数すべての教科において苦手としている生徒もいる。

ティームティーチングや習熟度別学習の機会を多くし、個に応じた指導を充実させる必要がある。